

01

奥大山江府学園

3年生社会科町内めぐり

10月11日(金)、奥大山江府学園の3年生16名が、町内の農業関係施設を見学しました。日野農機・自動車センターでは、トラクターやコンバインなどの機械に興味津々で、たくさんの質問をしました。続いて、JA江府支所で地域の農業について学び、その後ライスセンターを訪れて今年の新米が収納されている現場を見学しました。江府町では8種類のお米が育てられており、県外にも出荷されています。



下垣牛舎では大きな乳牛を間近に見学し、乳を搾る機械を見せてもらったり乳を保存する機械などの説明を受けたりしました。

見学を終えた児童達は「面白かった」と感想を述べ、農業への興味が湧いた様子でした。

この町内巡りは、地域の農業についてもっと知りたいという思いを強くした貴重な体験になったのではないのでしょうか。

江府町地域おこし協力隊通信



さとう かんた  
佐藤 幹太  
奥大山  
パークレンジャー

冬になると生き物達の多くは冬眠して活動しなくなります。ただ中には冬眠しない動物も沢山います。

私の好きな両生類爬虫類は一般的に冬には冬眠する種が多いです。なので冬に両生類爬虫類観察や調査をすることはあまりないので、その代わりに冬には哺乳類の調査を頻繁にするようにします。ただ直接観察することは難しいので足跡・フン・食痕といったフィールドサインからその動物の生活を推理していきます。これが中々難しく想像力を働かせなければなりません。皆様も是非一緒に哺乳類の痕跡探しをしましょう！



ごくだ けんた  
後工田 健太  
移住定住支援員

移住定住支援になって1年半経ちました。現在自分が住んでいる物件で限定的に住所の一部を開放する【すみびらき】というコミュニティスペースを設けて、空き家の問題や相談、利活用について一緒に考えられたらいいなと思っています。

そして、今勉強しているパーマカルチャーデザイン「持続性の高い生態系と文化」を築くためにテーマにした場所を構成するあらゆるもの(気候・土地・風土・人・動植物菌・無機物・構造物)について可能な限り情報を集め、それらの機能と繋がりを見出し、自律的に相乗効果を生み出す関係性をデザインする行為であり、オルタナティブ(持続可能な)という方向性をもった思考です。

そこに暮らす人達が活性化する事で交流や体験を生み、きっかけとなる場所にしていけたら良いと思います。

